

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

March
ISSUE



March, 2024
Volume 143



未来は自分で作るもの～旅立ちに向けて～

1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」とはよく言ったもので、あっという間に3月になりました。「寒い、寒い。」と言いながら過ごしておりますが、先日、プランターに植えたチューリップの芽がひょっこり顔を出ていることに気が付きました。3月に入り、陽射しも心なしか柔らかくなって、春が近いことを感じる今日この頃です。

先月は6年生のExhibitionが開催されました。彼らが長い時間かけて取り組んだ探究は、素晴らしいものでした。それから1か月がたち、卒業式まであとわずかとなりました。6年生の子どもたちはきっと、DIAで過ごした6年間の様々な思い出とともに、4月から新しく始まる生活に、期待で胸を躍らせていることと思います。

私は卒業が近づくと「旅立ち」という言葉を思い起こすのですが、今回はその「旅立ち」から連想するある映画のワンシーンを書かせてもらおうと思います。

その映画とは「バックトゥザフューチャー」です。ご存じの方も多いと思いますが、この映画は3部作になっており、主人公マーティが、デロリアンというタイムマシンで時空を旅する物語です。中でも私は1作目と3作目が好きなのですが、2作目も「映画の中で描かれる未来(2015年)が現実とよくマッチしており、大変興味深い。」と、その年のニュースで話題になっていました(※1)。

あらすじは皆さんのお楽しみのためにとって

おくとして、私が特に心に残った場面を紹介したいと思います。「バックトゥザフューチャー」の3作目、物語の最後の場面です。主人公の友人であるドクが、機関車型のタイムマシンに乗って、現代に帰ってきた主人公マーティに再会するシーンです。私は映画館でこの映画を見たのですが、その際にドクがマーティに伝えた言葉を聞き、感動したことを覚えています。物語に紆余曲折あったからこそ感動する言葉なのだと思います。これが自分の人生にも当てはまり、とても励まされたからなのです。その言葉がこちらです。

"It means your future hasn't been written yet! No one's has. Your future is whatever you make it. So make it a good one, both of you." (未来は白紙ってことさ！誰にとってもね。君たちの未来は君たちが作るんだ。だったら、君らでいい未来にするんだよ。)(※2)

私もドクの言葉の通りだと思うのです。嬉しいこと、楽しいこと、辛いこと、悲しいこと、様々なことが私たちの人生には待ち受けています。でも、いつも未来は白紙。未来を選ぶのは私たちなのです。

ロハス 亜紀

《参考文献》(※1)BBC News Japan:

<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-34612563>

(※2)映画スクエア:

https://www.eiga-square.jp/title/back_to_the_future_part3/quotes/14



キリスト教教育

3月：赦し March: Forgiveness

「主であり、師である私があなたがたの足を洗ったのだから、
あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。」

(ヨハネによる福音書 13 章 14 節 聖書協会共同訳)

キリスト教会の伝統的な宗教行事に、「洗足式」というものがあります。これはイースター（キリスト復活祭）前の受難週と呼ばれる時期に行われるもので、有名な「最後の晚餐」が始まる直前の出来事に因んでいます。

「イエスは…夕食の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手拭いを取って腰に巻かれた。それから、たらいに水を汲んで弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手拭いで拭き始められた。…」(ヨハネによる福音書 13 章 3 - 5 節)

当時、人々は裸足にサンダル履きで、舗装もしていない土埃の道を歩いていました。運搬手段としての家畜も普通に往来していましたから、当然、そこいらじゅうに落とし物が転がっていたことであろう。間違えて踏んづけた、なんていうことも日常茶飯事であったに違いありません。このような生活でしたから、食事前は手洗いだけでなく、足を洗うことも習慣でした。そしてこの足を洗う行為は、その人本人ではなく、通常その家の召し使いが行う仕事だったのです。

ところがイエス様は驚く弟子たちに構わず、自ら腰を屈めて彼らの足を一人一人洗ってゆかれました。

「私があなたがたにしたことがわかるか。…主であり、師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。私があなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのだ。…」(ヨハネによる福音書 13 章 12 - 15 節)

「足を洗う」という行為は、自らへりくだって相手を敬う気持ちがなければ、なかなかできません。相手の前に跪いて屈み、足を丁寧に持ち上げる動作そのものが普通の人には屈辱的な行為と映るからです。現代では皆靴下の上から更に靴を履いているので、いわゆる「洗足」の必要はありませんが、そこに込められたイエス様の教えは生き続けています。

「あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。…」(ヨハネによる福音書 13 章 34 節)

昔はどんなに全身を綺麗に保っていても、常に汚れてしまうのが足でした。そのように、どんなに良く生きようと努力しても罪を犯してしまうのが人間なので、日常的に犯してしまう過ちはお互いに赦し、愛し合わなければならない、というのがイエス様の教えなのです。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



ティントレット『キリストの洗足』 洗足式（アルメニア使徒教会） 洗足式（ウエールズ教会） 宗教授業での洗足体験

<お知らせ>

・3月の「おにぎり献金」は、3月12日（火）に行います。

※今年度のおにぎり献金は、岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「トルコ・シリア大地震」を覚えて、献金を募っています。賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。

なお、その後「ガザ人道危機」や今年元日に起こった「能登半島地震」など、覚えるべき被災地は年々増えています。年度ごとに支援先を更新し、祈りつつ献金を捧げていくことにご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

Grade 6 Unit 5 Exhibition 2024

エキシビションを振り返って

6年生は2月1日(木)と2日(金)の2日間、大盛況の中、無事にエキシビションを終えることができました。今年度は4年ぶりの一般公開となり、コロナ禍前の賑わいを取り戻すことができました。当日は300人以上のお客様にご来場いただき、子どもたちは不安と緊張の中、準備してきたことを、全身を使って表現していました。

エキシビションクラスが始まって子どもたちと走り続けた4か月。長期間自分の選んだテーマを探究し続けることはそう簡単なことではありません。時には苦しく、投げたしたいこともあったでしょう。それでも日々子どもたちが成長していく姿を見ることができました。エキシビション当日までは笑いあり、涙ありの長い長い道のりでした。発表当日はとにかく楽しむことを子どもたちに伝え送り出しました。エキシビションが終わってからはどの子もほっと一息ついている様子でした。エキシビションが終わった日、子どもたちに「もっとエキシビションをしたいかどうか」を尋ねてみました。想像していたよりも多くの子どもたちが手を挙げ「緊張したけどすごく楽しかった!」「またやりたい!」とのこと、このような子どもたちの声を聞いて本当に嬉しく思いました。中には、かなりのプレッシャーと緊張と疲れから「もう今回限り」という意見もありました。それだけ全力で取り組んできたエキシビション。最後の最後まで本当によく頑張りました。



1日目は在校生とその保護者に向けての発表でした。4年生や5年生の保護者からは特に「今回のエキシビションを見てとても心配になりました。」という声が多かったです。それだけ今年度のエキシビションはディスプレイにも負けない探究しつくした子どもたちの情熱と 생각이、次年度以降へのバトンとなって引き継がれた瞬間だと感じました。

壮大なディスプレイに負けないような内容になるように子どもたちには常に発表の中身を充実させることを伝えてきました。子どもたちの身振り手振りで表現する対話形式の発表は、多くのオーディエンスを魅了したことでしょう。1日目には午前と午後に1回ずつ合計2回の発表を行いました。午前での反省点や改善点を子どもたちは自ら調整し、午後の発表がより良いものになったことは言うまでもありません。一瞬一瞬で成長する姿を見られることは本当に嬉しいです。

2日目の一般公開日には予想以上の人たちにご来校いただきました。保護者やご家族の皆様をはじめ、過去にDIAで教鞭をとっていた先生方、ダンスパフォーマンスを支えてくださった先生方や卒業生など、たくさんの方々に来ていただきました。1日目よりも堂々と自身の持てる力を余すことなく発表している姿が印象的でした。特に冬休みが明けてからは1日1日子どもたちの成長が感じられました。探究と並行して練習に励んだ合唱とダンス。当日は練習では見られなかった子どもたちに秘められた本番の強さ、最高のパフォーマンスになりました。ダンスを終えた子どもたちが目に涙を浮かべながら体育館に向かう姿を見て「今から発表なんだけどなあ…。」と思いながら、気づけば私も何度目かわからない涙を流していました。体育館へ移動してからある児童が「卒業したくないよ～」と涙ながらに訴えてきたことが脳裏に深く刻まれ、今思い出しても涙が出ます。6年生の皆さん、そしていつも温かく見守ってくださった保護者の皆様、本当にお疲れ様でした。





「3月、別れの季節」

学校の1年間の最後の月、3月がやって来ました。最高学年として様々な場面で下級生をサポートしてくれた6年生は卒業を迎えます。本当におめでとうございます。他学年の子ども達も来月にはそれぞれ一つずつ学年が上がります。今月は「別れ」に贈りたい本をご紹介します。



『ありがとう』

谷川 俊太郎作

えがしら みちこ 絵 講談社

"卒業の日に「私」が思うこと"というイメージが膨らみ、一冊の絵本になりました。新しい道を歩き出す人に贈りたい一冊です。卒業式の日、感謝の気持ちが溢れます。空、花、お母さん…そして、私を私にしている私にも。



『おおきくなったらきみはなんになる?』 藤本 ともひこ作 村上 康成 絵 講談社

おおきくなったら、きみはなんになる? になりたいものは、きっと、いっぱいあって、みんながう。いろんなことをやっているうちに、すきなものをみつけることがある。だれかがむりだって、いうかもしれない。

でも、そんなのかんけない。

きみがやりたいことは、きみがきめるんだ。

きみがやりたいことを、きみがやるんだ。

これは、卒業生に贈る応援の歌です。



『ひろいせかいはいきみのもの』 オリヴィア・ホープ作 化学同人

ゾウと一緒に進み、鳥の背に乗って空をひとつとび。ジャングルをかきわけ、オオカミと雪山を走って…。想像力をはたらかせれば、どこにいてもとすばらしい冒険に繰り出すことができるのです。勇気をだして一歩ふみだせば、かがやく世界が君を待っている!

『あなたがおとなになったとき』

湯本 香樹実作

はた こうしろう 絵 講談社

表紙は大きな樹に登る女の子。どんな歌をうたい どんな本を読み どんな空を見つめるんだろう…。成長していくあなたへ贈るエールのような本です。



3月の主な行事・予定

1	金	
2	土	土曜参観・学期報告会 / Saturday Open Classes・Term-end Report MTG
3	日	
4	月	代休 Substitute holiday
5	火	
6	水	6年生を送る会 / G6 Farewell MTG 委員会活動 / Students' committees
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	震災を憶える礼拝 / The memorial worship service of the earthquake in Tohoku
12	火	
13	水	学期末カンファレンス (午前授業) / the term-end conferences (AM lessons)
14	木	学期末カンファレンス (午前授業) / the term-end conferences (AM lessons)
15	金	卒業式 / Graduation ceremony
16	土	
17	日	
18	月	午前授業 / AM lessons
19	火	修了礼拝 / Closing worship service, (午前授業) / (AM lessons)
20	水	春分の日 / Vernal equinox day

3月21日(木)～4月7日(日)
春季休業日

4月の主な行事・予定

- 8(月) 始業礼拝 / Opening Ceremony (午前授業 / AM lessons)
- 10(水) 入学式 / Entrance Ceremony